

平成 29 年 2 月 8 日(水)

歴史まちづくり部 松江歴史館

電話 0852-55-5511

配付資料 謎に包まれた家康築城時の江戸城を描いた最古級絵図の新発見**1. 概要**

松江歴史館所蔵の『^{ごくひしよこくしろず}極秘諸国城図』という江戸時代に描かれた全国各地の城絵図集の中にある「江戸^{えどはじめず}始図」と題した絵図が、徳川家康が築いた江戸城の縄張り（城の平面設計）を描いた最古級の絵図であることが判明しました。

近世江戸城を詳細に描いた最古の絵図は、慶長 12-14（1607-09）年ごろの江戸城を描いたとされる東京都立中央図書館所蔵の「慶長江戸絵図」ですが、今回、新発見した「江戸始図」も、同じく慶長 12-14（1607-09）年ごろの江戸城を描いた最古級の絵図であることが明らかになりました。

近世江戸城は改修が繰り返されるなど、徳川家康が築いた創築期の江戸城の詳細は謎に包まれています。絵図を調査した城郭考古学者で奈良大学教授の千田嘉博氏によると、この「江戸始図」によって、家康が築いた江戸城中心部の詳細をはじめて的確に把握できるなど、全国的に見ても画期的な資料であることが分かりました。

この絵図を 2 月 17 日から松江歴史館で初公開展示します。

2. 絵図の名称、寸法

名称：江戸^{えどはじめず}始図

寸法：縦 27.6cm、横 40.0cm

3. 絵図の初公開展示

展示期間：平成 29 年 2 月 17 日（金）～同年 3 月 15 日（水）

展示会場：松江歴史館 基本展示室内

観覧料：基本展示観覧料（大人 510 円、小・中学生 250 円）

4. 添付資料

- ・松江歴史館所蔵「江戸始図」の学術的意義の概要
- ・松江歴史館所蔵「江戸始図」の学術的意義について（奈良大学教授・千田嘉博氏の報告）